世界の柔道強豪国における国家的強化方針に関する研究
—イタリア人エツィオ・ガンバ監督とロシアの国家的強化策—

トップスポーツマネジメントコース
5017A315-6　鈴木　桂治　　研究指導教員 平田 竹男 教授

1. 研究の背景

2017 年時点、国際柔道連盟（IJF）加盟国は約 200 の国と地域となっている。日本の柔道競技人口は 2016 年時前年比 98.6%と減少傾向となっている。2009 年以降、ルール改正や世界ランキングの導入により柔道がより国際化している中で、オリンピック競技大会（以下五輪）、世界柔道選手権大会などではメダル獲得国が世界各国に分散していることからも「柔道＝日本」ということは決して言えず、常に危機感をもった強化を行っていかなければならない。国際競技力が分散化しているからこそ、日本が恒常的に金メダルを獲得するためには戦略的なマネジメント方策が必要である。

ロシアは、2008 年北京五輪柔道競技ではメダルなしという大惨敗であった。しかし、2012 年ロンドン五輪柔道競技で、ロシアは金 3 銀 1 銅 1 のメダルを獲得している。北京からロンドンにかけ、なぜロシアが急成長したのかが大きな疑問である。そこには、2008 年北京五輪後にロシア代表監督に就任したイタリア人監督エツィオ・ガンバ氏の存在が大きな変革をもたらしたと考えられる。ガンバ氏は選手としてモスクワ・ロサンゼルス五輪で金、銀メダルを獲得した選手である。ガンバ氏の強化策・マネジメント策を明らかにすることで日本の柔道の発展に有用な情報を提供すると考えられる。

ナショナルチームにおける強化の取り組みに関する先行研究としては、東野・平田（2011）による、「アルゼンチン男子バスケットボールにおける選手育成に関する調査研究」や三浦・平田（2012）による「指導者、監督の評価基準に関する研究」がみられる。しかし、柔道に関する研究としては、濱田ら（2006）による、「フランスにおける柔道強化策に関する実態調査」のみであり、実際に近年国際舞台で好成績を収めている強化国の実態を国別に調査し強化の体制を比較検討した研究は見受けられない。

2. 研究の目的

本研究は、2008 年北京大会以降躍進したロシアの取り組みを中心に、柔道強化国の強化に関する国家的方針と具体的な強化策を明らかにすることを目的とする。

3. 研究方法

１）調査対象

調査対象は、ロシア・フランス・韓国・イギリス・ブラジル・ジョージア・カナダ・オランダ・ウズベキスタン・アゼルバイジャンであった。

２）アンケート調査

調査項目は、強化費（予算）、強化体制、指導者（ナショナルコーチ）、年間の強化スケジュール・計画、強化活動の評価の 5 つの大きな項目を設定し、各設問についてさらに詳細の小項目を設定した。

３）インタビュー調査

ガンバ氏に、アンケート調査で得られた回答をもとにその詳細について説明を求めた。インタビュー調査は、通訳を介して実施した。回答の内容は IC レコーダーに録音し、逐語資料作成後、各質問項目への回答とそれ以外の重要点に着目し抽出した。

4. 研究結果

アンケート調査の結果を表１に示した。

１） 強化費

各国の予算収入は国費またはスポンサー費が大半であった。フランス、ジョージアは全額を国費で賄われ、カナダは 60%が国費であった。一方で、ロシア、ブラジル、ウズベキスタン、アゼルバイジャンはスポンサー費からの資金が大半であり、特にロシアはそのウエイトが高かった。オランダ、イギリス、韓国はスポーツくじを含む国費もしくは政府関連省庁からの資金が当てられていたことがわかった。

２） 強化選手選考

各国の強化選手選考に関する特徴が 3 点あった。

① 強化選手総数は、ロシア、イギリス、カナダ、ジョージアが韓国、ブラジルに比して多く、その中でロシアは非常に多い。

② 大半の国でカデ、ジュニア、シニアと強化選手を指定していた。年代別人数を見ると、カナダ等が各年代で同人数の強化選手数であったが、ロシアは他の対象国と異なり、カデ 20 人、ジュニア 30 人、シニア 70 人と、カデからジュニア、シニアに上がるとともに強化選手数が増えていた。

③ 強化選手の開始年代は、ロシア、フランス、オランダ、ジョージアは 16 歳からのカデカテゴリーから強化指定をしており、また、強化選手総数の中での年代別内訳を回答した国の中でロシア、カナダはカデカテゴリーが特に多い。

３） 外国人指導者（監督・コーチ）

ロシアが最多の 5 人であった。オランダが 2 人、ブラジルが 1 人という結果であった。他の国は、検討はしているが実際に招聘している国は無かった。

４） 合宿日数並びに回数

ロシアは国内 200 日、国外 100 日、年間合計 300 日の合宿を行っていた。ロシア以外の国は回数での回答となり最多合宿回数はブラジルであり、国内 12 回、国外 9 回の年間合計 21 回の合宿回数であった。すべての国に共通して言えることは国外での合宿を実施しているということであった。

表 1　強化国のおける「収入、強化選手選考、外国人指導者、合宿日数並び回数」の一覧

	ロシア	フランス	オランダ	ジョージア	イギリス	カナダ	ブラジル	韓国	ウズベキスタン	アゼルバイジャン
収入割合 スポンサー	70%	0	0	0			○		○	○
収入割合 国	30%	100%	○	100%	○	60%	○	○	○	○
収入割合 その他			○		○			○		
金額（$）	－	6,825,000	2,400,000	－	1,139,685	6,000,000	6,000,000	－		
カテゴリー（人）										
総数	120			28	42	42	7	16	28	
カデ（15～17 歳）	20					14	2			
ジュニア（19 歳以下）	30					14	2			
シニア	70			4		14	3			
外国人指導者（人）	5	O	2	O	O	O	1	O		
合宿（合計）	300 日/年	9	2	10	8～10	15	21	6＊		5～6
国内（回/年）	200 日	4～5	1	6	0	5	12			4～5
国外（回/年）	100 日	3～4	1	4	8～10	10	9	4～6		2～3

＊韓国代表選手はナショナルトレーニングセンターにて生活をしている。

※斜線：回答なし,○：回答あり実数なし,－：詳細なし

５） ロシアの国家的強化策

ロシアがメダルなしであった 2008 年北京五輪において、アフリカ諸国の指導者としてアルジェリアに 2 つ、エジプトに１つメダルをもたらしたガンバ氏を 2008 年に監督として招聘した。ガンバ氏により大きな変革がもたらされた。ガンバ氏のモットーは「組織、チームを作ること、経験豊かなコーチを起用し、選手一人一人に課題を与え、オリンピックでの勝利のみを考えさせること、対外国人選手のみを意識させること」という他国では考えられない強化方針である。

特徴的取り組みは、年間 300 日程度の強化合宿（シニア）、しかも国外合宿を 100 日程度することで、「全体が一緒にいることによって選手同士で誰が強いか、が見えてくる。一緒に行動しないと自分がこの選手より強いか弱いかがわからないので一緒にいることで自分を相手と比較できる。70 人の男子選手がいてそれぞれが自分のプロジェクトを抱えている中で、一番難しいのは、各選手にプランを考えること」と述べている。

5. 考察

1） 本研究の主要な知見

１）諸外国の国家的強化策の概要

1.　強化費

世界の強化国の資金面における特徴は、国費をスポーツ関連省庁より強化資金として支援を受けることで長期計画がたてられ、その上で強化策がされている国がある。一方でロシアのように主として民間支援が中心の国があるが、各国の年代別強化指定選手をカデからシニアに至るまで約 10 年以上の年齢にわたる強化を前提とした継続的支援を裏付けられる資金支援体制になっていると考えられる。

2.　選手選考

各国ともに強化選手の枠を設け、国内外の強化合宿などを経て選手を選考している。選手をある程度絞り強化していくことでピンポイントに絞った強化ができると考えられる。

2） ロシアにおける国家的強化策の特徴

１）強化組織（外国人監督）

ロシアでは 2008 年北京五輪後にイタリア人を監督として招聘した。また、現在５名の外国人スタッフがいる。そこには常に新しい発想と研究が必要である。と考えられる。

２）年代別育成システム

ロシアの強化方法には参考になる点が多い。強化選手数合計が極めて多いのみならず、年代別ではカデからシニアに至る段階で増やしている（カデ・ジュニアで 50 名程度、シニアで 70 名程度）。すなわち、ロシアでは多くの国内選手を直接対決させることで代表選考しているのではなく、それぞれの選手に対して対外国人選手に向けた強化課題を与えていた。

３）強化合宿

年間 300 日という日数を強化合宿に当てている。選手同士が一緒に過ごすことで自分の立場や選手としての位置などが見えてくるからではないかと考えられる。

４）国内選考法

ロシア人同士の試合はしない。あくまで、対国外選手を意識した取り組みだと考えられる。

５）スポンサー

ロシアの強化費の 7 割はスポンサーからの支援となっている。監督の思い通りの強化ができるということが大きな要因だと考えられる。

3） 本研究の限界

本研究の内容が各国強化のすべてではない可能性は十分考えられる。強化国の戦略については継続的に分析する必要がある。

6. 結論

ロシア GM ガンバ氏における特徴的な取り組みは以下の通りであった。

１） カデ・ジュニアからシニアへと上がる段階で強化選手数を増やしより多くの選手へチャンスを作っている。
２） シニアカテゴリーにおける年 300 日の強化合宿（国内外）
３） 選手個別のプログラム設定（個別で大会参加を計画することと国外選手に勝つことを目標設定とする）
４） コーチの育成
実績のある選手を中心にカデのコーチからジュニアコーチを経てシニアコーチへと繋げている

強化国の強化に関するマネジメント（グランドデザイン）と具体的な強化策は以下のとおりであった。

１） 強化資金の安定的な確保
２） カデカテゴリーから強化を開始
３） 国内外合宿にて海外選手との練習機会の確保